

平成30年度 第1回苫小牧市子ども・子育て審議会 会議録

開催日時 平成30年6月27日(水) 午後6時から午後7時20分まで

開催場所 苫小牧市役所 職員会館304号室

出席者

- ・審議会委員 12名
池田委員、磯部委員、上村委員、遠藤委員、小原委員、佐藤(章)委員、佐藤(守)委員、末松委員、鶴巻委員、中野委員、永石委員、山上委員
- ・関係職員 15名
健康こども部長、健康こども部次長、こども育成課長、こども支援課長、青少年課長、健康支援課長、こども育成課長補佐、青少年課長補佐、健康支援課長補佐、発達支援課長補佐、こども支援課副主幹、健康支援課副主幹、こども育成課総務係長、こども育成課総務係主任主事(2名)
- ・傍聴人 5名
市政レポーター(4名)、苫小牧民報社(1名)

1 開会

(司会)

それではお時間となりましたので、ただいまから「平成30年度 第1回 苫小牧市子ども・子育て審議会」を開催いたします。委員の皆様におかれましては、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

本日、司会を務めさせていただく、こども育成課の細野と申します。よろしくお願いいたします。

2 新任委員紹介

(司会)

まず、新任委員をご紹介させていただきます。

団体から推薦されておりました委員2名が退任されたため、新たにご推薦いただいたものがございます。

苫小牧市PTA連合会の入江和美様の後任に、大澤智恵美様、苫小牧市子ども会育成連絡協議会の菅野嘉一様の後任に佐藤守様のご推薦がありました。

では、新任委員の方に自己紹介をお願いいたします。まず、佐藤守委員をお願いいたします。

＝佐藤守委員自己紹介＝

佐藤守委員、ありがとうございます。

なお、大澤智恵美委員は本日、所用のため欠席となります。

続きまして、桜田健康こども部長よりご挨拶申し上げます。

3 健康こども部長挨拶

(健康こども部長)

皆さん、お晩でございます。

健康こども部長の桜田でございます。

本日はお忙しいところ「苫小牧市子ども・子育て審議会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃から子育て支援をはじめ、市政の発展のためにご理解とご協力をいただきまして、重ねてお礼を申し上げます。

さて、子ども・子育て支援新制度が開始されまして、はや3年が経過いたしました。本市といたしましても、平成27年3月に策定いたしました「子ども・子育て支援事業計画」に基づきまして、各種事業に取り組んでいるところでございます。昨年度は、皆様のご協力のもと計画の中間見直しをさせていただきました。改めまして感謝を申し上げます。今年度もお忙しい中、ご負担をお掛けすることがありますが、お力添えをよろしくお願い致します。

本日は、子ども・子育て支援事業計画の、教育・保育等の確保方策や各種施策の平成29年度の取組み状況をご報告させていただきますが、皆様からの忌憚のないご意見をいただきながら進めて行きたいと考えておりますので、本日は、よろしくお願い致します。

4 会議の成立

(司会)

ありがとうございます。

ここで、会議の成立について、ご報告いたします。

本日は小倉委員、大澤委員のお二人が欠席となります。

苫小牧市子ども子育て審議会条例第6条第2項におきまして、会議は委員の過半数以上が出席しなければ、開催できないことが規定されておりますが、現在、委員14人中12人と、過半数以上の委員が出席されておりますので、会議が成立していることをご報告いたします。

続きまして議事に入りますが、ここからは小原会長に進行をお願いしますので、議長席へ移動して、議長をお願いいたします。

5 議事

(議長)

それでは、ここからは、私が議事を進行させていただきます。

本日の議事の説明と質疑を行い、午後7時30分を目途に終了を予定しております。また、この審議会の議事録を苫小牧市のホームページで公開いたしますので、よろしくお願いいたします。

では早速、次第4の議事に入ります。

まず、(1)子ども・子育て支援事業計画における平成29年度確保方策の実施状況について、事務局から説明をお願いします。

(こども育成課総務係長)

こども育成課の早出です。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、子ども・子育て支援事業計画の平成29年実施状況についてご報告させていただきます。

始めに、資料1に沿って、計画の第4章、見直し後の計画書(改訂版)では14ページから記載しております教育・保育施設の需要量および確保の方策の平成29年度の実施状況についてご説明させていただきます。

この第4章では、認定こども園、幼稚園、保育園等を利用したい方や、子ども・子育て関連事業を利用したい方が、どの程度いて、その人数分の受入枠をどのように確保していくのか、いつ、どのような施設をつくって、どのように受け入れていくのかを記載しております。この計画は平成27年から31年までの5ヵ年の計画になっておりまして、昨年度の平成29年度に計画の見直しを実施しております。

それでは、資料1、1ページ目の上段の表をご覧ください。ここでは施設の数について、上段に目標値、下段に実績を記載しています。表のとおり認定こども園、新制度幼稚園、私学助成幼稚園、保育所、小規模保育事業所ともすべての施設で目標どおり施設整備ができております。

次に下の表をご覧ください。こちらは市民のニーズの量である量の見込み。各施設の受入枠、平

成29年度の目標値、受入園児数の実績の表となります。表の見方を少々説明させていただきます。一番左に1号、2号、3号などがございますが、これが子どもの認定の種類で、1号は保育を必要としない3～5歳で、主に幼稚園等に行く方、2号は保育を必要とする3～5歳で、主に保育園等に行く方、3号は保育を必要とする0～2歳で、こちらも主に保育園に行く方で、3号については、0歳と1、2歳に分けております。年度の右側にあります「量の見込み」は、市民の皆様のニーズ量を見込んだ数値となります。ニーズ量は平成25年のニーズ調査と平成29年度に推測した人口動態及び平成28年度、29年度の保育需要の結果を基に算出しています。この計画の最終目標は、この量の見込み分の受入枠を確保していくこととなります。

次に、その右の欄の区分ですが、主に見ていただきたいのは、平成29年度の「目標値」「受入枠」「実績」の3つの計の部分、いわゆる合計の部分となります。この3つについてそれぞれご説明させていただきますが、まず「目標値」とは、計画に定めた平成29年度の受入れ数の目標です。本来であれば、量の見込みイコール目標値とするところですが、3号の1、2歳児、3号の0歳児は量の見込みであるニーズ量に対しての受入枠を十分に確保できていないため、平成29年度は量の見込みよりも少ない数字を年度の目標値としております。

次の「受入枠」とは、各園の定員を合計したものです。基本的にはここにある人数分、受入れが可能ということとなります。

最後の「実績」といいますのが平成29年度、実際に受け入れた子どもの数となります。

また、各事業について、A B C Dの4段階で評価をしております。計画書にございますように、各事業の年度毎の目標値を定めておりますので、これに対しての取り組み状況として、Aは「順調」、Bは「概ね順調」、Cは「やや遅れている」、Dは「遅れている」としています。

では、表の1号の部分から説明させていただきます。平成29年度、量の見込みは3,014人ですが、この部分については新たな整備等はせずに対応できるものと考え、目標値を量の見込みと同じく3,014人としています。次に受入枠ですが、受入枠の計の部分をご覧いただくと目標比117.8%の3,550人となっており、目標値を500人以上、上回っており、実績の計の部分をご覧いただきますと、目標比103.1%の3,107人となっており、目標値と比較して93人上回っています。

次は2号の部分をご覧ください。平成29年度の量の見込みは1,109人で、こちらも既存の施設でニーズに対応できるものと考え、目標値の計は1,109人としております。受入枠は、目標比106.7%の1,183人で合計では目標を74人上回る分を確保できましたが実績につきましては、目標を9人下回り目標比99.2%でした。

ここまで、1号、2号とも目標を超える受入枠を確保できております。

続きまして、3号、保育の必要な1、2歳についてです。ここでは量の見込みは756人となっておりますが、受入枠の整備が追いついておらず、現状の体制ではこの756人全員の受入れは難しいため、平成31年度までに受入れ体制を整備することとし、29年度は目標値の計の欄にありますとおり、675人を目標としています。これに対し、受入枠は目標比94.4%の637人でしたが、各園のご尽力により定員を超える受入れをしていただき678人が在園しており、実績は目標比100.0%、目標を3人分上回る結果となっております。

最後に3号、保育の必要な0歳児についてです。量の見込みは328人となっておりますが、こちらも現在、受入枠の整備が追いついておらず、次期計画にて量の見込みの受入れ体制を整備することとし、29年度の目標値は計の欄にある200人としています。これに対し受入枠は164人で、目標比82.0%、不足は36人となっております。しかし、こちらも各園のご尽力により定員を超える受入れを行っていただき、実際には194人が在園し、実績は目標比97.0%、不足は6人分

となっています。

苫小牧市の現状では1号、2号とも受入枠に余裕がありますが、3号の0～2歳は、定員を超過して目標値近くまで園児を受け入れが出来ているものの受入枠が不足している状況にあります。この評価につきましてはほぼ、目標値に対する受入ができていたためB（概ね順調）としますが、今後も計画に沿って施設整備を行い、受入枠の拡充を行っていきます。

次に2ページ目をご覧ください。ここからは平成27年度から開始されました子ども・子育て支援新制度で実施していく各種事業のご説明となります。

まずは延長保育事業です。ここからの事業は、定員、受入枠というものは定めていませんので、目標と実績の2段となっています。延長保育事業は通常の保育時間の夜18時30分を越えて預かりを行う事業です。こちらは、量の見込みが、現状の受け入れ体制を大きく上回るため、受入れ枠の拡大をしますが、計画の最終年度である平成31年度においても不足が生じる計画となっており、今年度、市民の皆様へのニーズ調査を行い、不足分の再計算を行った上で、平成32年度以降に次期計画において、量の見込み分確保することを目標としております。

平成29年度の目標は8施設190名の利用としていましたが、実績は8施設で164人となりました。施設数は達成しましたが、利用者数について26人分目標を達成しておりませんので、評価はB（概ね順調）としております。利用者数の目標を達成できなかった原因としましては、施設数がまだ少なく、利用しにくい状況もあったかと推測されます。また、量の見込みが326人に対して利用者数が164人となっており、量の見込みに対して162人分実績が不足しているため、今後は延長保育の実施施設を増やして利用しやすい環境にしていきたいと考えております。

次に放課後児童健全育成事業、放課後児童クラブ事業です。この事業は、放課後に保護者がお仕事等で家庭にいない児童に適切な生活の場を提供する事業となります。量の見込みが1,321人に対して、平成29年度の目標値は37施設で1,321人を受け入れることとしていました。実績では、37施設で利用者数が1,344人となっており、施設数、利用者数とも目標どおりに受入れを行うことができているため、A（順調）の評価としております。

3番目の子育て短期支援事業についてですが、こちらは18歳未満の方を対象に、保護者の病気等の際に里親が1週間以内の宿泊を伴う預かりを行う事業です。こちらは現状の体制で対応可能であると考え、量の見込みと確保方策を同数の94人日を目標としています。

実績では目標値を上回る98人日の受入れを行うことができたことから、A（順調）の評価としています。

4番目の地域子育て支援拠点事業についてですが、親子遊び、育児相談等の場を提供する事業で、市内では合計4施設で実施しています。こちらも現状の体制で対応と考え、確保方策は4施設で、量の見込みと同数の11,266人日を目標としております。

平成29年度の実績は4施設で10,379人日と施設数は目標通りでしたが、利用回数が目標を下回りました、しかし、目標値分の利用回数は確保できているため、評価はB（概ね順調）としています。利用実績が目標値を下回った理由としましては、平成29年度は平成28年度と比較して、0～2歳の苫小牧市内の人口が190人程度減っていることと、0～2歳児で保育所等に入所した児童数が62人増加しており、今まで子育て支援拠点事業を利用していた人たちに、働く環境が出来て保育所等に入所することにより、子育て支援拠点事業の利用実績が減ったと推測できます。今後も苫小牧市内の児童の減少数、保育所等の入所見込数と子育て支援拠点事業の利用実績の関係の確認を行っていきます。

次に5番目の①一時預かり事業（幼稚園型）についてです。これは、幼稚園の在園児を対象に通

常の教育時間が終わった後、預かりを行う事業で、幼稚園・認定こども園で実施しています。表の一番上の左から5番目にございます「私学助成」といいますが、以前から行われてきました文部科学省が行っている助成です。その右隣の地域子育て支援事業といいますが、平成27年4月から開始した新制度において内閣府が主体となって行っている助成です。幼稚園・認定こども園は一時預かりを行うにあたって、基本的にはどちらかを利用することとなります。量の見込みは111,989人日となっておりますが、この数値は現行の体制で対応可能であると考え、目標値は2事業合わせて、量の見込みと同数の111,989人日としています。実績では合計で105,406人日となり、目標を大きく下回る結果となりました。ただし、市内の幼稚園に対する調査から、全園で受入枠に余裕があることがわかっており、受入枠は179,857人日分あります。こちらの評価につきましては、受入枠が十分に確保されていることからA（順調）としています。また、一時預かり事業（幼稚園型）の平成29年度の実績は平成28年度と比較して7,593人日分減少しておりますが、こちらの原因としましては、苫小牧市内の3～5歳の児童数が平成28年度と比較して平成29年度は40人減少していることと、保育所等を利用する児童が平成28年度よりも13人増加し、幼稚園を利用する児童が13人減少していることから、幼稚園の一時預かりではなく、保育所等の長時間保育を選択する世帯が多くなったことで、幼稚園の一時預かり事業の実績が減少したことが推測されます。こちらも、児童の減少数、幼稚園、保育所等の利用児童数、一時預かり事業（幼稚園型）の利用実績の関係性を今後も確認してまいります。

（5）②の一時預かり（保育所等）についてですが、この事業は、保育園、ファミリー・サポート・センターで行う、短期間の預かりの事業となっております。

こちらは、計画の最終年度である平成31年度においても不足が生じる計画となっております。今年度、市民の皆様へのニーズ調査を行い、不足分の再計算を行った上で、平成32年度以降に次期計画にて、量の見込み分確保することを目標としております。

29年度の目標値は保育所の一時預かり（一般型）4,460人日、ファミサポ1,670人日の計6,130人日としています。実績では、一時預かり（保育所）は目標に届かず、ファミサポが目標を上回っております。合計では目標を55人日上回っていることを考慮し、B（概ね順調）の評価としています。一時預かり（保育所等）の利用実績につきましても、保育所等に入所できる児童が増加すれば、一時預かり（保育所等）の利用者が減少する傾向になると考えられますので、今後の動向を注視し、平成32年度以降の次期計画に反映させていきたいと考えております。

次に、（6）の病児保育事業とファミサポでの病児・緊急対応強化事業についてです。こちらは病気やケガで幼稚園、保育園等を利用できないお子さんを看護師のいる専用の部屋で預かる事業です。こちらも計画の最終年度である平成31年度においても不足が生じる計画となっております。今年度、市民の皆様へのニーズ調査を行い、不足分の再計算を行った上で、平成32年度以降に次期計画にて量の見込み分確保することを目標としております。

29年度の目標値は134人日としておりますが、実績は124人日となっております。評価につきましては、目標値分の受入態勢は整っているので評価はB（概ね順調）の評価としております。この事業は量の見込みが429人日で実績が124人日と量の見込みに対して305人日分の不足が出ているため、利用者が更に利用しやすくなるよう、まずは、保育所等での病児・病後児保育事業の増設を行ってまいります。

次に（7）子育て援助活動支援事業ですが、この事業はファミサポでの小学生の預かり事業になります。平成29年度の目標値は1,288人日のところ、これを大きく上回る2,033人日の実施となりましたのでA（順調）の評価としております。実績が量の見込みを大きく上回っている要因としましては、引き続き、放課後児童クラブ・児童センター等を利用する保護者の方への周知、子ども・子育てガイドでの周知を行った結果、この事業を利用する保護者が増加していることが挙

げられます。

次に（８）利用者支援事業です。こちらは子ども・子育て関連サービスの利用を希望する方が、最も適したサービスを選択して利用できるよう、相談・支援を行う事業で、いわゆる保育コンシェルジュを配置する事業となっております。２９年度も目標どおり２か所を市役所のこども育成課窓口、子育て支援センターの２か所に設置しておりますので、Ａ（順調）の評価としています。

続きまして（９）妊婦健診事業です。こちらは妊婦の健診や超音波健診の費用の一部助成を行う事業となっております。量の見込み１７，５００回で同数の実施を目標としていたところですが、実績では目標を上回る１７，５００回となりましたので、Ａ（順調）の評価としています。

次に（１０）乳児家庭全戸訪問事業です。これは生後４か月の乳児のいる全家庭を訪問し、情報提供や養育環境の把握等を行う事業です。量の見込み１，４５０人に対して、同数を目標としていましたが、出生数の減少のため、実績は目標を下回っていますが、対象者の９９．４％を訪問することができましたので、評価はＡ（順調）としています。

最後に（１１）養育支援訪問事業です。この事業は妊婦健診未受診の方、子育てに対して強い不安を抱えているなど、養育支援が必要な方を訪問し、助言指導などを行う事業です。量の見込みは２３０人で同数を目標としており、実績では目標を下回り１９４人となりましたが、対象者全員への支援ができましたので評価はＡ（順調）としております。

説明は以上となります。今年度目標を達成できなかった事業は、目標達成に向けて取り組みを続けていくこととなります。また、今年度は平成３２年度から３６年度までの第２期計画を策定するための市民の皆さまに向けたニーズ調査量を実施し、子ども・子育て支援事業計画がより良いものとなるよう取り組んでまいります。

今後も引き続き子ども・子育て支援の充実に取り組んでまいりますので、引き続きご理解と御協力をよろしくお願いいたします。

（議長）

（１）子ども・子育て支援事業計画における平成２９年度確保方策の実施状況について、説明がありました。

皆様から何か、ご意見、ご質問はございますか。 はい、どうぞ。

（遠藤委員）

質問したいことが２つございます。資料１の３ページ目の（５）一時預かり事業の幼稚園型の部分ですが、私どもの保育園でも延長保育事業を行っているのですが、幼稚園型の一時預かり事業は、施設に対して補助金があるのでしょうか、あるいは利用する保護者の方へ補助金があるのでしょうか。そこをお伺いしたいと思います。もう一点ですが、資料１の４ページの中の子どもの子育てサービスを希望する方への相談事業である利用者支援事業は、窓口を２カ所設置して、実施したとのことでしたが、実際には年間、何件くらい相談があったのかということと、保育コンシェルジュの方への相談内容はどのようなものが多いのかをお伺いしたいと思います。

（議長）

はい、ご回答のほどよろしくお願いいたします。

(こども育成課長)

はい、今の2点のご質問についてですが、まず、一時預かり事業の幼稚園型につきましては、施設に対して補助が出る内容なのか、利用者に対して補助が出る内容なのかというご質問でしたが、こちらにつきましては、施設側に対しまして、一時預かり事業の利用実績に応じて補助が出るという形になっており、利用者への補助は無い事業となっております。続きまして、子育て関連サービス利用者への相談支援事業、いわゆる利用者支援事業の実績につきましては、平成29年度は約1,900件となっております、大体、月に160件のペースで相談を受けております。その相談内容ですが、私どもの主な業務としましては保育所、認定こども園等の入所の受付を行うこととなっておりますことから、7～8割はこの保育所、認定こども園の入所等に関わる相談となっております、残りの2～3割がその他の相談となっております。

(議長)

はい、よろしいでしょうか。その他の質問、ご意見ありますでしょうか。

では、質問が無いようですので、次に移りたいと思います。

(2) 子ども・子育て支援事業計画における平成29年度施策の実施状況について事務局から説明をお願いします。

(こども育成課総務係長)

では、続きまして、資料2に沿って、計画の改訂版の第5章、27ページから記載しております子ども・子育て支援施策の実施状況についてご説明させていただきます。

計画の第5章では、市役所内の各部署で行っている事業のうち、子ども・子育てに関する148の施策を取り上げて、平成25年度の状況と平成31年度までの目標を記載しております。資料2では、計画書に書かれている基本目標ごとの事業評価、資料3では、各施策の平成29年度の詳細な取組状況、平成30年度の実施予定をまとめております。

子ども・子育て支援施策につきましては、まず、A3の大きさになっています資料3の1ページ目をご覧ください。

子ども・子育て支援施策は左から7番目の「評価指標」に掲げられた事項を、平成31年までにその二つ右の目標値のとおりとすることを目標とする形にしております。こちらの評価につきましては、それぞれの担当課が順調の場合はA、概ね順調の場合はB、やや遅れている場合はC、遅れている場合はDの4段階で評価をしており、31年度の目標達成に向けて、順調に取り組めたか、遅れているかという観点で評価しております。

施策は5つの基本目標に対してNo.1からNo.144及び新規という項目がございますが、1つの施策を複数の課で実施し、それぞれ評価しているケースもありますので、全部で161項目、評価しております。全体では、130項目(81%)がA評価でした。ほか、B評価28項目(17%)、C評価3項目(2%)、D評価0項目となっております、全体の98%が順調若しくは概ね順調とされています。平成28年度の実施状況に比べますとA評価が3項目増加、B評価が3項目増加、C評価が2項目減少となっております、事業の評価が順調あるいは概ね順調になったものが増えております。

次に、資料2に沿って基本目標ごとに評価を見てまいりたいと思います。資料2をご覧ください。「基本目標1.子どもと子育て家庭を支援します」の事業の評価の表をご覧ください。左から年度、各施策の評価別項目数、合計となっております。こちらには計46の項目がございます、平成29年度の評価の内訳はA評価が38項目、B評価が7項目、C評価が1項目となっております、全体の98%が順調又は概ね順調となっております。

評価に変動のあった施策はページ中段以降にある9項目になっており、4項目の評価が上がり、5項目の評価が下がっております。

また、C評価以下となっている施策につきましては、2ページ上段の表にお示ししております20番の保育所・幼稚園等の情報提供です。こちらは市のホームページや「子ども・子育てガイド」で市内の保育所や幼稚園の各種情報を積極的提供する事業ですが、平成29年度「子ども・子育てガイド」の設置箇所数を12箇所から17箇所へと拡大したものの、平成31年度の目標値が「子ども・子育てガイド」の設置箇所数45箇所であることを勘案すると、設置箇所数がまだまだ少ないためC評価としました。子育て世帯が訪問する施設の選定が難しく設置箇所数を伸ばせていませんでしたが、平成30年度は市内の各スケートセンター、体育館、プールや中央図書館に新しく設置し、計26箇所設置しております。今後も、平成31年度までに目標を達成できるよう活動を進めていきます。基本目標1の総合評価ですが、C評価は1項目あるものの全体の98%の事業で順調あるいは概ね順調に施策を実施できましたので、評価をB（概ね順調）といたしました。

次に2ページ中段からの「基本目標2. 仕事と子育ての両立を支援します」についてです。事業評価の表にありますとおりこちらは13の項目があるうち、Aが5項目、Bが8項目となっており、すべての事業が順調又は概ね順調としています。

次に評価に変動のあった施策は3項目で、いずれも評価が上がっています。

基本目標2の評価としましてはA評価が3項目増え、C評価がなくなり、すべての事業が順調、あるいは概ね順調となっていることから、評価はA（順調）といたしました。

続きまして、3ページ目の基本目標「3. 子どもの教育・保育環境を整備します」についてです。こちらには37の項目があるうち、Aが33項目、Bが4項目となっており、すべての事業が順調又は概ね順調となっています。

評価に変動があったのは3項目で、2項目の評価が上がり、1項目の評価が下がっています。

基本目標3の評価としましては、C評価がなくなり、すべての事業が順調又は概ね順調となっていることから、評価はA（順調）といたしました。

続きまして、4ページ目の基本目標「4. 子ども・子育てを地域で支えあう環境をつくります」についてです。こちらには34の項目があるうち、Aが27項目、Bが7項目となっており、すべての事業で順調又は概ね順調となっています。

評価に変動があったのは2項目で、1項目の評価が上がり、1項目の評価が下がっています。

基本目標4の評価としましては、C評価がなくなり、すべての事業が順調又は概ね順調となっていることから、評価はA（順調）といたしました。

最後に5ページ目、基本目標「5. 一人ひとりの子どもの特性に配慮したきめ細かな支援をします」についてです。こちらには31の項目があり、このうちAが27項目、Bが2項目、Cが2項目ありました。全体の94%で順調又は概ね順調となっています。

評価に変動があったのは2項目で、1項目の評価が上がり、1項目の評価が下がっています。

また、C評価となったのは、133番発達支援課の障がい児通所支援と141番 保育所等訪問支援事業です。133番 発達支援課の障がい児通所支援は障がいのあるお子さんに対し通所による指導・訓練を行う事業です。こちらは、職員の増員を図りましたが、在籍児が前年比で19%増加したことにより、相対的な指導回数は増えたものの、契約児童一人あたりの指導回数は未就学児、就学児とも0.1回ずつしか増えていないため、C評価としています。次に141番 保育所等訪問支援事業は障がい児施設で指導経験のある児童指導員や保育士が、保育所などを2週間に1回程度訪問し、障がい児や保育所などのスタッフに対し、障がい児が集団生活に適應するための専門的な支援を行う事業ですが、こちらは、専任職員の退職と通園児童の増加により、保育所等訪問支援

事業を十分に展開できなかったため支援回数と支援人数が少なくなっております。今年度は職員の体制を整備し、支援件数を増やしていくよう努めていきます。

基本目標5の評価としましてはC評価があるものの全体の94%が順調、概ね順調となっていることから、評価はB（概ね順調）といたしました。

各施策の評価は以上となりますが、すべての項目について、平成31年度の目標達成に向けて取り組んでまいりたいと考えています。説明は以上です。

（議長）

（2）子ども・子育て支援事業計画における平成29年度施策の実施状況について説明がありました。

各委員の皆様から、何かご意見及びご質問はございますか。

（佐藤（守）委員）

放課後児童クラブの関係ですが、民間が3ヵ所あるということで、同じ校区内で、学校内にある放課後児童クラブと民間の放課後児童クラブがあった場合に、子ども達や保護者はどのように放課後児童クラブを選択するのでしょうか。それから、今後、民間の放課後児童クラブが多くなっている場合に、その地域の学校でやっている放課後児童クラブにどのような影響があるのかについて教えていただきたいと思います。

（議長）

事務局の方から、回答をお願いします。

（青少年課長）

まず、同じ校区内に市の直営の児童クラブと民間の児童クラブがあった場合の選択方法ですけれども、すべて保護者の方が選択しておりますので、市からどこの児童クラブと指定することはございません。それから、同じ校区に民間の児童クラブが多くなった場合につきましては、私どもは民間の児童クラブの認可を行う役割を担っており、地域に民間の事業者さんが多くなりすぎて、民間の各児童クラブに児童が少なくなってくると経営を圧迫することもございますので、利用する人数をある程度、把握した上で民間の児童クラブの認可を行って行きたいと思います。

（議長）

はい、他に何かありますか。

（遠藤委員）

2点ございまして、資料2の4ページの93番 放課後子ども総合プランにつきましてモデル校を2校選定するということですが、今後、まだ増えていくのかということをお聞きしたいのと、資料2の5ページの141番 保育所等訪問支援事業ですが、私どもの保育園でもこの事業の支援を受ける子どもさんが多くなってきておりまして、お母さんのお仕事の関係から訪問型の支援を選ぶ人が多くなってきております。このような状況で、なかなか訪問型が広がらなかった理由がここから良くわかりました。人的な配置もなかなか大変だと思う反面、例年、発達に問題を抱えている子どもさんや、どう子どもと関わっていくのか良いのだろうという悩みを持った保護者さんも多くなってきており、訪問型の支援事業を多くしていきたいという目標もあります。今後の見通しについて、お伺いしたいと思います。

（議長）

回答をよろしくをお願いします。

(青少年課長)

放課後子ども総合プランについてですが、モデル校を平成31年度までに2校選定するというところで、資料2の4ページにも書いてありますが、モデル校の選定について、今までは教育委員会と私ども青少年課と打ち合わせの機会がなかったのですが、平成29年度は初めて、検討が開始され、教育委員会がモデル校を選定するというので、話が進みましたので評価をAとさせていただきます。モデル校はまだ、選定はしておりませんが、2校を選定した後は、そこをモデルにどう進めていくかを検討していき、うまくいけば増やしていくかもしれませんし、必要性につきましては教育委員会が判断していくこととなります。

(発達支援課長補佐)

保育所等の訪問型支援事業ですが、支援できている数がかなり減っております。平成28年度までは、おおぞら園の通所支援と保育所等訪問支援の両方の支援を併用できるという体制をとっていましたが、先ほど、ご説明させていただきましたようにおおぞら園の通所支援数が著しく増えております。具体的な数字で言いますと平成28年度は351名であったものが平成29年度は418名という在籍数になっております。また、在籍はしておりませんが、相談だけ行うという件数も増えております。131番障がい児相談にも記載されておりますが、相談件数は平成28年度448件であったものが平成29年度は593件と増えています。その中で、必要があれば、お母さんに訪問支援と通所支援のどちらを選択されますかというお話をしております。お仕事をされているお母さんは、最初は訪問支援を選ばれる方が多いですが、お母さんとの面談の中でお子さんのいいところ、悪いところ、頑張れるところなど今後の方針をお伝えした後は、個別の支援を希望されるケースが増えておりますので、最終的には通所支援を希望される方が増えております。ということで保育所等訪問支援事業が減っているように見えております。ただ、今年度は既に昨年度を超える保育所等の訪問支援を行っております。今後も3ヵ月、6ヵ月過ぎた段階で訪問支援を継続するか、通所支援にするかお尋ねしていく予定ですが、お母さんのとのお話の中で、今回は通所支援というケースが増えておりますので、現状をご理解いただければと思います。今後の方向性に関しましては、保育所等訪問支援という形は減っておりますが、通所支援に変更となった場合につきましても親御さんのご希望があれば家庭訪問、幼稚園訪問、保育園訪問を年1回程度行い、そちらのほうでフォローしながら職員を増やしたり、職員の育成を含めて検討していきたいと思っております。

(議長)

よろしいでしょうか。

(遠藤委員)

今、ご回答いただき、これから訪問支援は少しずつ改善されていくのかなと思いました。また、本当に平成28年度と平成29年度の支援数を聞いただけで、本当にすごい量だと思います。保育園に通っているお子さんに関しましても、入所の段階では問題がなくても、集団生活の刺激によって、もしかしたら発達に関わる場所に問題があるかなというところが少しずつわかってくる場合があります。近頃、幼稚園も保育園も同じ悩みを抱えていると思いますが、個人情報保護法ができてからおおぞら園に通所するにも、保育園からおおぞら園に連絡を取るにも親御さんの許可が必要となっているため、おおぞら園と幼稚園、保育園で共有できる情報がとても減ってきています。親御さんが子どもさんに不安を抱えて、おおぞら園に連絡を取ってくださいという場合には連絡を取っていますが、おおぞら園に連絡ができずに困まっている状況もあります。個別の支援事業計画の作成についても親御さんの許可が必要で、親御さんの許可がないと何もできない世の中になってきております。情報の共有化というところでは、おおぞら園の職員の保育所訪問がきっかけになって親御さんに理解していただければ、私達のほうもおおぞら園に相談ができるようになり、子ども

さんに対しても親御さんにどのようなことについて気をつければ良いのかということをおおぞら園と少しでも親密につながって、子どもさんのためになれば良いかなと思いますので、保育所等の訪問支援についての拡充をよろしくお願いします。

(議長)

その他に何かありますか。

(末松委員)

資料2の2ページの20番 保育所・幼稚園等の情報提供のところのC評価の理由の説明が理解できなかったです。目標に達しなかったということなのですが、これは、やろうとした結果、施設から子ども・子育てガイドの設置について協力が得られなかったのか、あるいは努力が足りなかったのか、どこに問題があったのか良くわからないと思いましたので、そのあたりを教えていただければと思います。そして、資料2の5ページのところの133番 障がい児の通所支援がC評価となっていますが、ここは人数で表現されていませんが、人数で表現すると支障があるのかどうかはわかりませんが、わずかな人数で職員もわずかであるというのであれば、ちょっとの変動でも割合が大きく動いてしまうので、このあたりがC評価の原因になっているのではないかとも思いますが、本当にC評価なのでしょう。職員を1人増やすと供給が過大になってしまうという問題のためにC評価となるのであれば、評価の仕方を考え直す必要があると思いますが、この辺の実態はどうなっているのでしょうか。

(議長)

事務局から回答をお願いします。

(こども育成課長)

保育所・幼稚園等の情報提供のところについてですが、施設の協力が得られなかったのか、原課の努力不足なのかということですが、もともと45カ所の公共施設に子ども・子育てガイドを設置するという考えで考えていました。子育てをしている世帯の方々がどういった施設に足を運ぶのかといったことを考えたときに、こういった方々が足を運びやすい公共施設と足を運びにくい公共施設があるかと思えます。そこで、まずは公共施設をしばった上で、ガイドの配布を優先させようと動いたところが、自分たちで設置施設数を縮めてしまったところがございます。ただ、そのガイドの配布も平成27年度から始めまして、すでに3カ年が経過しており、今年度につきましては、ある程度、当初予定していた公共施設への配布をしており、残り2年間で更なる努力をしていきたいと考えているところでございます。

(発達支援課長補佐)

ご理解いただきまして、とてもありがたいと思っております。C評価にした理由についてですが、数を具体的に提示することに問題はありますが、前年度比でお示したほうが、わかりやすいのではないかという意見が課内で出たため、割合でお示しさせていただきました。もう少し具体的に数をお話させていただきますと、平成25年度の在籍数は298名と300を切る数でした。しかし、この4年間で418名まで増えておりまして、平成26年、27年、28年あたりは年間多くても20～30名しか増えていませんでしたが、この1年間で70名近く増えました。その理由としましては幼稚園、保育園さんもほうでお勧めしていただくということもありますし、発達障がいという言葉も含めて親御さんの理解が深まったということもあろうかと思いますが、私たちの施設が双葉町に移転して施設が充実し、とても施設がきれいになり、名称も心身障害者福祉センターから子ども発達支援センターというように変えたことも通所等のハードルが下がったのではないか

と考えております。なので、評価としてはCとなっておりますが、私達としましては、従来、来づらかった親御さんも来やすくなったということで、C評価だとちょっと残念だということもありますけども、全体的な目標回数を見たときに、通所している児童のお父さん、お母さんから見たときに1回でも多く指導して欲しいというお気持ちもあろうかと思えます。また、年度当初は1人あたりの指導回数は多めになっておりますが、年度末になりますと指導が必要なお子さんが多くなって、1人あたりの指導回数が少なくなります。このことから数字だけを見ますと、どう頑張ってもB評価はつけられないということになります。職員の数に関しましては、苫小牧市の中でも職員を減らされている部署も多い中で、発達支援課は1人、2人と増やしていただいている状況で、職員不足について理解されている状況ではありますが、数字的にはどうしてもC評価になってしまったという現状です。

(議長)

よろしいでしょうか。基本的に障がい児の問題は母数を把握しきれないという部分があるのと、発達支援のニーズが年々増加しているため、これらの事業をC評価とすべきものかを判断することはとても難しいと思えます。他に質問等はございますか。

(鶴巻委員)

先ほど、子ども・子育てガイドの設置箇所数について話がありましたが、だいぶ前の話で、他市の話ですが、私の子どもが生まれたときには、検診の案内とか検診の助成案内が1歳児の頃からいっぺんに送られてきました。そのときに、このような子育てガイドも一緒に送られてきており、保育所の案内ですとか、困ったときにはこういうところがあるよということが良くわかり、長年に渡って助かった記憶がありますが、苫小牧市ではどうなっているのでしょうか。

(議長)

事務局から回答をお願いします。

(こども育成課長)

私どものほうで作成しているガイドというものはオレンジ色の冊子で平成27年度から作成しております。この冊子は幼稚園、認定こども園、保育園の情報以外にもその他の保育サービスが掲載されており、ボリュームも増やしています。また、ページ数も90ページを超えていて厚めの冊子になっております。新しい制度が始まってから作った本格的なガイドとなっております、作ってからまだ、年数がそう経っておりません。私どもとしましては45箇所の設置ということで目標を立てて、広く周知するというので取り組んでいりましたが、まずは、このガイドの存在をいち早く子育て世代にPRしているためには子育て世代が足を運ぶ施設に設置するべきなのかということで、設置箇所数を絞って設置を行っているのが現状となります。先ほど、委員のほうからお話のありましたように、検診の案内と一緒に子ども・子育てガイドを送付することは一つの方法としてあろうかと思えますが、苫小牧市の出生数は1000人を超えており、ある程度の出生数がありますので、すべての世帯に子ども・子育てガイドを配布するのがいいのか、はたまた、案内文を入れるだけでもPR効果があるのかといった部分の考えさせていただければと思います。

(議長)

その他にご意見等はございますか。

(佐藤守委員)

東京で痛ましい児童虐待の事件があって、苫小牧市の児童虐待防止関係の施策を確認すると、すべてA評価となっております。東京の児童虐待事件は警察との連携がうまくいっていなかったこと

で重大な事件になったとのことでしたが、東京の児童虐待事件を受けて苦小牧市としては何か考えを変えたことはあるでしょうか。

(議長)

事務局のほうからどうぞ。

(こども支援課長)

私どもで苦小牧市要保護児童対策地域協議会というものを設置いたしまして、その中の機関として苦小牧警察署さんに入っていて、必要に応じて連携を図っているところでございます。

(議長)

よろしいでしょうか。その他にございますか。次に(3)今後のスケジュールについて事務局から説明をお願いします。

(こども育成課総務係長)

それでは、今後のスケジュールについてご説明いたします。

お手元の資料4をご覧ください。この資料では、本日以降、平成30年度の事務作業と審議会開催の日程を中心に、現段階での予定をお示ししております。また、国や道の動向次第ではこのスケジュールは変更となる場合がありますので、ご了承願います。

まず本日は、30年度初回となる審議会の開催となりますが、この後、平成32年度から5年間の次期子ども・子育て支援事業計画を作成するためのニーズ調査の項目作成に入りまして、9月下旬頃に第2回の審議会を開催し、ニーズ調査の調査項目案をお示しいたします。そして、第2回の審議会終了後、ニーズ調査を対象世帯へ送付します。11月下旬頃に第3回の審議会を開催しますが、ここでは、平成31年4月に向けた利用定員の設定をお示しする予定です。

平成31年2月上旬頃に第4回の審議会を開催し、ニーズ調査の実施状況、特定教育・保育施設等の利用状況及び今後の見通しをご報告させていただき、さらには、利用定員の設定につきましても最終版を報告する予定でございます。ニーズ調査の分析につきましては年度内に行いまして、ニーズ調査の分析結果につきましては平成31年度の審議会でご報告する予定となっております。

今後のスケジュールについての説明は、以上でございます。

(議長)

事務局から、(3)今後のスケジュールについて説明がありました。

ご意見、ご質問はございますか。

ただいまの説明について、ご意見、ご質問はございますか。

全体を通して、質問やご意見などがあれば遠慮なくお願いします。

質問が無いようですので、これで全ての議事が終了しました。本日は皆様のご協力をいただき、ありがとうございました。

6 閉会

(司会)

小原会長、ありがとうございました。

これをもちまして「平成30年度 第1回 苦小牧市子ども・子育て審議会」を閉会いたします。

本日は、説明・審議にご協力いただきありがとうございました。

お帰りの際、お忘れ物などないよう、お気をつけください。